

アシストコンサルティング / 江尻幸雄からの『2分で読切りニュースレター』

このニュースレターは名刺を交換させて頂いた方へお送りしています。不要な場合は空メールを返信頂ければ次回より停止いたします。この記事が皆様のお役にできれば幸いです。

今回のテーマは、、、『平等と公平、そして成長』です

広辞苑が10年ぶりに改訂、1万項目が追加され2018年1月に販売されるそうです。今回は直接の関連はないのですが、言葉の理解と言う点で取り上げてみました。人事制度構築の際の基本コンセプトとしてお話しすることがあります。

●平等と公平の違い

昔(と言ってもここ10年ほど前のことですが)、ゆとり教育と言われ競争社会を見直す機運が盛り上がった時期がありました。なかでも象徴的なのが、小学校の運動会の“かけっこ”で走者全員が手を取り合って同時にゴールしたり、また、学芸会では全員が主役・・・、なんてこともありました。さすがにこれは行き過ぎではと声があがりましたが、“平等”と言う意識にこだわり過ぎて、結局“悪平等”になっています。

このように、勉強はできないけど運動はできる、運動は苦手だけど勉強はできる、普段は目立たないけど音楽会で見事にピアノを演奏、ホームランは打てないけどバントは得意、体力はないけど気力は強い、など弱みと強みは元々同居しているものです。得手不得手はあって当たり前であり、それが個性を作り上げているとも言えます。

子供の内の話かと思うと社会人でも同じようなことはあります。平等に似た概念で“公平”という言葉があります。

ただし、“公平”には“不公平”はあっても、“悪公平”という言葉はありません。

- ・“公平”とはスタートライン横一列に並ぶことであり、
- ・“平等”とはスタートしてから「心身の個人の特性に応じて個性・能力を発揮できる環境」が全員に提供されること、
- ・“悪平等”とは一見、平等に見えるが個人の能力発揮の場を奪い成長にもつながらないこと、

当然その結果として、1位、2位などの差がつくのも事実ですが、幸いなことに世には様々なスタートラインがあり、私達はそれを選ぶことができます。

その際に得意なジャンルを選ぶことが多いでしょうが、その得手不得手は一生固定されたものでないこと、本人や周りの思い込みであったりもしますので時折自己の見直しなどが有効なのはこの理由によるものです。

●人が成長し変わる

さてビジネスで平等な成長機会のために外部の研修やセミナーへの参加、あるいは実務的な内容のコンサルタントの招聘があります(私も会社勤め時代に会社の経費、勤務時間内で職務内容と無関係なセミナーに行かしてもらったことが多々あり)。興味があり成果に活かして行く意志があり、かつ帰社後いずれその社内講師としてフィードバックできるなら、どんどんお金をかけても良いと思います。それは費用でなく、その会社人財への投資です。

社内講師制度は大きなメリットを3つ有しています。

- ① 講師として話すことは、受講者の数倍は理解していないと役目を果たせません。また、話しの組立や話し方の訓練にもなります。ですから社員が相互に得意なテーマでも講師になることを是非おすすめします。
- ② そのような制度を設けることで会社としての受入体制が整うことです。セミナーでのモチベーションを維持できるかどうかは会社に戻ってからの活用の機会に影響されます。
- ③ 手前味噌ですが、結果として能力アップされているので、私共のような人と話す際の理解が早い。

機会があれば弊社でもご相談をお受けしています(笑)。

最後までお読み頂きありがとうございます。